

## 理事長挨拶 済生会理事長 炭谷茂

済生会理事長の炭谷でございます。本日は第 10 回の済生会生活困窮者問題シンポジウムにせっかくの土曜日の休みの日にかかわりませず、このようにお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

先ほど一戸院長から丁寧なご説明がございました。このシンポジウムの趣旨を十分おわかりいただいたのではないかとと思いますが、やや重複しますが少しお話しさせていただきます。

たぶんこの北上もそうだと思いますが、皆様方、いろいろと問題を抱えていらっしゃる。たとえばご家族にもいらっしゃるかもしれませんが、近年認知症の高齢者の方々が心配だと。また近所にどうも認知症の方のようで心配だ、場合によっては迷子になってしまうのではないかとということも、この北上でもあるのだろうと思います。

また 2 週間前ぐらいに新聞に大きく載りましたが、国の調査ではいじめの件数が過去最高だったということもあります。また不登校も過去最高。何でこんなふうになるのか。文科省の説明は、いや、これはコロナのせいだと書いてありましたが、私はコロナのせいだけではないのではないかと考えています。というのは、いじめや不登校はずっと増えていました。その延長線上にあって、仮にコロナが終わったとしても学校でのいじめや不登校は決して減らないと思っています。原因はほかにあるのではないかと考えています。

また障がい者の方々は、なかなか働く場所がない。特に私が最近心配しているのは、発達障害や精神障害の方です。身体障害の方や知的障害の方は、比較的福祉施策が充実してきましたので、働く場所は増えてきましたが、精神障害や発達障害についてはなかなか増えないという問題もあります。また先ほども出ましたが、たとえば長い間引きこもりをしている方、また元受刑者の方なども同様に社会から孤立したり、排除されたりということがあります。

済生会はいまから 111 年前に明治天皇がつくられたわけですが、まさに済生会はこのような社会の問題、社会の底辺にある問題を解決しようということで作られました。済生会の根本的な目的はそこにあるわけですから、これらの問題を座視するわけにいかない、積極的にやっていかなければいけないということで、平成 22 年度から「なでしこプラン」をつくり、対応を取っています。

「なでしこプラン」の実績を申しますと、これまですでに毎年 17 万人、大きい数字だと

と思いますが、17万人に対して支援を行ってきました。でも少し考えてみると、「なでしこプラン」はこれからも継続しますが、問題はもっといろいろあるのではないかと。つまり先ほど言いましたように引きこもりや不登校、またDVが多い、これは必ずしも生活困窮者だけではないのではないかと。豊かな人のお子さんにもやはり不登校は生じている、DVも起こっていると考え、生活困窮者の範囲をもっと広げなくてはいけないということで、これからは社会的援護を必要とする、社会的な支援を必要とする、そのような人々に対して幅広く支援をしていかなければいけないのではないかと考え方を広げております。

また問題の根底には、社会から孤立している。認知症の高齢者がそのとおりです。また、たとえば元受刑者の方やホームレスのように社会からのけ者にされている、排除されている人たちがいる。そうではなくてそのような人たちを社会の中に包摂していく、社会の一員として暮らせるようにしていく、このような考え方を取る必要があるのではないかと考えております。

そこでさらに「なでしこプラン」にプラスして、令和2年7月から「済生会ソーシャルインクルージョン推進計画」を策定しました。非常に難しい言葉ですが、社会から排除されたり孤立するのではなくて、社会の中にインクルージョン、社会の一員として加えるようにしていきたい。そのようなことで現在済生会として進めているわけです。これは具体的な事業として1696の事業を全国で展開しています。これが評価されて、昨年12月には国の行っているジャパンSDGsアワードの官房長官賞をいただくことができました。

済生会は、「なでしこプラン」、さらには「ソーシャルインクルージョン推進計画」、この二本立てで社会の問題について対処していきたいと考えております。本日のシンポジウムがこのような社会的な課題に対して解決策を見出すシンポジウムになることを期待いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。